第 43 回関東地区公立中学校

修学旅行研究発表会

研究紀要

期 日 ： 平成１９年１１月２０日(火)

会 場 ： さいたま市民会館おおみや

主 催

関東地区公立中学校修学旅行委員会

財団法人 全国修学旅行研究協会

後 援

埼玉県・さいたま市・茨城県・栃木県・群馬県・千葉県各教育委員会

埼玉県・茨城県・栃木県・群馬県・千葉県 各中学校長会

研究発表会の趣旨

修学旅行は近年、訪問地や体験の幅が広がり、その形態が多様になってきました。しかし、望ましい集団活動、個人的資質の向上、社会性の涵養、自主性・実践性の育成、人間としての生き方への志向といった“修学旅行の価値”は変わっていません。まさにこうした価値を追究していくことが修学旅行の目的なのです。その意味で、何を体験させるかということ以上に、体験によって何を学ばせるのかが大切なのです。

現在、学校教育の中心課題となっている「生きる力」とは、「生涯において生起される課題を自ら解決できる力」だと考えます。その力を育成するために教科、道徳、総合的な学習の時間、そして特別活動があります。教科は学問から、道徳は生き方・あり方から、総合的学習は身の回りを取り巻く課題から、特別活動は自治的活動や集団づくりといったように、それぞれの領域を生かした課題をもとに追究していくことが求められています。

修学旅行についても、「生きる力」を育成する観点から、自治的・集団的活動をもとに、学校では経験できない出合い・ふれあい・発見を通して喜びや感動を味わい、“学びの創造”に取組む必要があると思います。つまり学びの価値を与えていく意図的な学習計画があるべきです。

今日各学校は修学旅行を実施するにあたり、新しい教育の趣旨を汲み取り、こどもたちの主体性を生かし、さらには教育効果をより高めるために関係者や関係機関との連携を図る中で、創意に満ちた取り組みをされていることと思います。

このような趣旨から研究発表会の主題に「子供の未来を拓く修学旅行の役割の探究」を掲げ、各県教育委員会をはじめ、関係教育諸機関のご協力とご支援により、関東地区公立中学校修学旅行研究発表会を開催し、修学旅行の研究を深めることは大きな意義があることと考えます。

目　　次

1　研究発表会次第　…… 1

2　あいさつ

関東地区公立中学校修学旅行委員会会長　前　堅　進　一　… 2

財団法人 全国修学旅行研究協会理事長　中　西　　朗　… 3

3　研究発表

主題　「子供の未来を拓く修学旅行の役割の探究」

・発表　1　…… 5

「生きる力をはぐくむ修学旅行」

－体験学習を通して、自分の将来・地域を見つめる旅－

川口市立東中学校　大　倉　芳　樹　教諭

松　井　　登　教諭

・発表　2　…… 19

「現在・過去・未来、そして自分を見つめる修学旅行」

－総合的な学習の時間とリンクした実践的な取り組みを通してー

行田市立埼玉中学校　桜　井　信　雄　教諭

4　指導講評　…… 38

埼玉県教育局義務教育指導課 指導主事　渋　谷　修　造　様

5　研究発表のあゆみ　…… 39

研 究 発 表 会 次 第

1　大 会 主 題　「子供の未来を拓く修学旅行の役割の探究」

2　日　程

(1) 受　付（12:45～13:10）

(2) 開会行事（13:10～13:40）

・ 開会のことば

関東地区公立中学校修学旅行委員会運営委員長　秋　池　　功

・ 主催者あいさつ

関東地区公立中学校修学旅行委員会会長　前　堅　進　一
財団法人全国修学旅行研究協会理事長　中　西　　朗

・ 来賓祝辞

埼玉県教育委員会教育長　島　村　和　男　様
さいたま市教育委員会教育長　藤　間　文　隆　様

・ 来賓及び指導者紹介

(3) 関修委活動報告(13:40～13:55)　関修委研究委員長　富　田　政　博

(4) 研究発表（13:55～15:05）

・ 発表１

「生きる力をはぐくむ修学旅行」
－体験学習を通して自分の将来･地域を見つめる旅－
川口市立東中学校　大　倉　芳　樹　教諭
松　井　　登　教諭

・ 発表 2

「現在・過去・未来、そして自分を見つめる修学旅行」
行田市立埼玉中学校　桜　井　信　雄　教諭

(5) 研究協議（15:05～15:35）

(6) 休　憩（15:35～15:50）

(7) 指導講評（15:50～16:20）

埼玉県教育局義務教育指導課　指導主事　渋　谷　修　造　様

(8) 閉会行事（16:20～16:35）

・ 閉会の言葉

埼玉県中学校長会修学旅行対策部　石　井　秀　穂

・ 諸連絡

研究発表会の開催にあたって

関東地区公立中学校修学旅行委員会
会　長　　前　堅　進　一
（埼玉県秩父市立秩父第一中学校長）

このたび、第４３回関東地区公立中学校修学旅行研究発表会が皆様方のご尽力により、盛大に開催されますことを心からお喜び申し上げます。

今年度の修学旅行も多くの学校では大きな成果をあげて無事に終了し、次年度の準備に入っている頃かと推察いたします。卒業間近の生徒たちに「中学校生活の中で一番印象に残っていることは何ですか」と訪ねると、多くの生徒が「修学旅行です」と応えています。このように、生徒たちは修学旅行を通して実に多くのことを学び、人間的にも成長して最高の楽しい思い出となっているのです。

ご案内のように、修学旅行は、生徒が平素と異なる環境の中で、訪問地の文化や自然などに触れ、学校内だけでは得がたい多様な体験を積むことにより、学校で学習した内容の一層の定着を図るとともに、生徒に広い知見と豊かな情操が育成されることを期待する学校教育における重要な行事です。また、集団行動を通して自律心を養い、自主的に集団の規律や秩序を守る態度を育成するとともに、寝食を共にすることにより、教師と生徒、生徒相互の人間的な触れ合いの場となり、生徒理解の面からも大変貴重な機会であります。

このような観点から、修学旅行を一層充実するために、各学校では長年にわたって実践と研究を積み重ねてきました。修学旅行における安全の確保を大前提にしながら、事前・事後の指導を適切に行い、生徒の主体的な活動の工夫・改善等に努めているところです。今後さらに、「人間としての生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う」ため、修学旅行における「体験」と「言語」を重視しながら、生徒の主体的な活動をさらに高めることが大切です。そして、驚きと感動のある文化や自然に直接触れ、地域の人々との有意義な出会い等を創造していく修学旅行とすることが重要であると考えます。

これまで、当委員会では修学旅行研究発表会を毎年開催し、より充実した修学旅行とするために、研究校がそれぞれの教育目的や地域の特性等を生かした特色ある修学旅行の実践を発表して研究協議や情報交換等を行う場を提供してきたところです。

本日の修学旅行研究発表会では、大会主題である「子供の未来を拓く修学旅行の役割の探求」をテーマに話し合い、修学旅行の創造性や安全性を一層高めるとともに、集団への所属感を深め、中学校生活の充実と発展に資する活動計画、生徒主体の実践事例等について研究協議が深められることを祈念しております。長年にわたり研究を続けてきた発表校の皆様方のご尽力・ご協力に心から感謝とお礼を申し上げます。

結びに、本日の研究発表会の開催にあたり、ご指導ご助言を頂きました埼玉県教育委員会、さいたま市教育委員会、埼玉県中学校長会、埼玉県教育公務員弘済会並びに関係諸団体、さらに運営に携わった財団法人全国修学旅行研究協会、埼玉県中学校長会修学旅行対策部会の皆様方に厚く御礼を申し上げます。

関東地区公立中学校
修学旅行研究発表会の開催にあたって

財団法人　全国修学旅行研究協会
理事長　中　　西　　朗

教育への期待が高まっているとき、第４３回関東地区公立中学校修学旅行研究発表会が開催されますことは、まことに意義深いものがあります。この開催に当たり、関東地区公立中学校修学旅行委員会のご尽力はもとより、各県の教育委員会・中学校校長会、特に開催地区のさいたま市教育委員会・中学校校長会の格段のご支援に心から御礼申し上げます。

これからの教育発展に向けて、各学校が創意工夫を生かした特色ある教育、特色ある学校づくりを推進することが求められています。特に、生活体験の不足、人間関係や連帯感の希薄化、集団や社会の一員としての自覚や責任感の低下などが指摘されているとき、自然や文化とのふれあい、人々との幅広い交流、正しい勤労観・職業観の育成など、多くの体験を通して感動ある教育活動の一層の充実が待たれています。

この中で、修学旅行という行事を捉えたとき、単なる体験に終わることなく、子供の感性に訴え、生徒の感性を育成するという役割が重要です。修学旅行はまさに感性を磨く旅といえましょう。旅に出て、未知なる世界に触れ、文化・自然・歴史・人々との出会いは、生涯の人間形成に深く関わるものです。『もの』の時代から『心』の時代へ変化するとき、真・善・美などを心で感じられる『感性価値』を高めるということが大切となります。

今回発表していただく、川口市立東中学校の「生きる力をはぐくむ旅」、行田市立埼玉中学校の「自分を見つめる旅」ともども、修学旅行を通じて子供たちにすばらしい感性を育ててくれることでしょう。このご発表は、私たちに多くの示唆を与えてくれます。特に、現在多くの論議を呼んでおります総合的な学習の時間の重要性が強調され、そのための時間確保が期待されています。

また、研究調査活動に尽力されました研究委員会の研究委員長　富田政博先生の貴重なご報告は、これからの修学旅行の姿を示してくれます。

最後になりましたが、ご多忙の中ご臨席いただき、ご祝辞をいただきます埼玉県教育委員会教育長　島村和男様、さいたま市教育委員会教育長　藤間文隆様、ご指導いただきます埼玉県教育委員会教育局義務教育指導課指導主事　渋谷修造様に心から御礼申し上げます。

生きる力をはぐくむ修学旅行

－体験学習を通して、自分の将来・地域を見つめる旅－

埼玉県川口市立東中学校　教諭（研究主任）　大倉　芳樹
教諭（学年主任）　松井　登

Ⅰ．はじめに

Ⅱ．テーマ設定の理由

１）本校の教育目標との関連から

２）校内研究との関連から

＊平成 12、13 年度川口市教育委員会研究委嘱（新教育課程）

・テーマ　「生きる力を育む指導法の研究」
－新しい教育課程に向けて－

＊平成 15、16 年度川口市教育委員会委嘱（総合的な学習の時間）

・テーマ　「自分の思いを生き生きと表現できる生徒の育成」
－発表の場とそこに至る過程の工夫を通して－

３）総合的な学習の時間との関連から

・系統的、継続的な学習、研究からの修学旅行の取り組み

４）学校行事との関連から

・年間を通した各種コンテスト、コンクールの実施　・クリーン作戦
・遠足（1 年次）、水上自然教室（2 年次）　・夢ワーク（社会体験学習）

Ⅲ．修学旅行までの取り組み　＜学校行事、夢ワーク、総合学習などの実践を通して＞

・全学年時における学習、取り組み等の集大成として、修学旅行を位置づけた。

１）１年次　・総合学習のテーマ　－地域に学ぶ－
・夢ワーク（社会体験授業）

２）２年次　・総合学習のテーマ　－福祉・ボランティア－
・水上自然教室
・修学旅行の事前学習

３）３年次　・総合学習のテーマ　－卒業研究－
・修学旅行の取り組み

Ⅳ．修学旅行の取り組み・実践

・日程より

１日目　－　奈良方面　　奈良公園内散策、東大寺、薬師寺
２日目　－　京都方面　　京言葉の学習会、市内班タクシー行動、妙心寺
３日目　－　京都方面　　京都伝統体験、市内班行動

Ⅴ．まとめ、課題

Ⅰ．はじめに

本校は埼玉県川口市の東南に位置し、東は草加市、南は東京都足立区に隣接している、生徒数 586 名（１年 190 名、２年 207 名、3 年 189 名）の中規模校である。保護者には本校の卒業生も多く、教育活動に協力的で学校に対する期待も大きい。生徒は明るく素直であり、合唱コンクールや体育祭などの行事等にもよく取り組んでいる。また、部活動も盛んで関東大会に出場する生徒も輩出している。

本校は平成 12、13 年度および平成 15、16 年度に川口市の研究委嘱を受け、これまでに『生きる力』を育むために多方面で生徒の発表力の向上を目指し、全校をあげた取り組みを行ってきた。学校行事として毎年行っている私の主張コンクール、校内英語スピーチコンテスト、東風タイム発表会（総合的な学習の時間）では、自分の考えや思いをいかに表現させるかを課題とし、各取り組みともにクラス、学年、全校発表（学年・全校は代表者）を行っている。この活動を通して生徒に自信をつけさせ、自主的、積極的に学校生活を送るとともに、生徒一人ひとりが『生きる力』を育むことができると考えている。また東風タイム（総合的な学習の時間）では、1 年から３年まで毎年計画的に取り組むことで、各自の研究テーマを深く掘り下げた追求活動が行われている。

これらの体系的な取り組みが毎年継続される中で、修学旅行に向けて実行委員会が中心となり、生徒が自主的に目的や決まりを決めてそれを実践できたことは、これまでの取り組みの成果と言える。また、修学旅行をより充実した内容の行事とするために、教職員で組織する修学旅行実行委員会（昨年９月）を新たに発足させた。この会を通じて、これからもよりよい修学旅行を目指し、検討していく予定である。

Ⅱ．テーマ設定の理由

本校では、これまで教育活動や校内研究、総合的な学習の時間、学校行事等を通じて、様々な目標設定や実践を行ってきた。今回の修学旅行では、それらの実践を一貫性のある形で系統立てて整理を行い関連づけすることによって、「生きる力をはぐくむ修学旅行　－体験学習を通して、自分の将来・地域を見つめる旅－」というテーマを設定した。そこで、１）から４）に今回のテーマ設定の基礎となった本校の取り組みについて述べる。

１）本校の校訓・教育目標から

本校の校訓『賢く・優しく・逞しく・美しく』のもと、『①良く考える生徒、②心豊かな生徒、③心身ともに逞しい生徒、④勤労・奉仕の心を持つ生徒』を学校目標に掲げ、教育活動を進めている。各学年ともにこの校訓・教育目標を達成するために現状を把握し、学年目標を設定している。１学年は『思いやりの心を持ち、お互いが協力し合って、意欲的に活動する生徒』、２学年は『進んで自らの向上心を図り、何事にも主体的に取り組む生徒』、３学年は『最上級生としての自覚を持ち、より高い目標の実現へ向けて実践できる生徒』である。この目標を達成させるために、教職員が連携をはかりながら、各教科がそれぞれの目標を立て、日々の教育活動を通して実践を行っている。

２）校内研究との関連から

本校では川口市から研究委嘱を受け、全校をあげての取り組みを行ってきた。

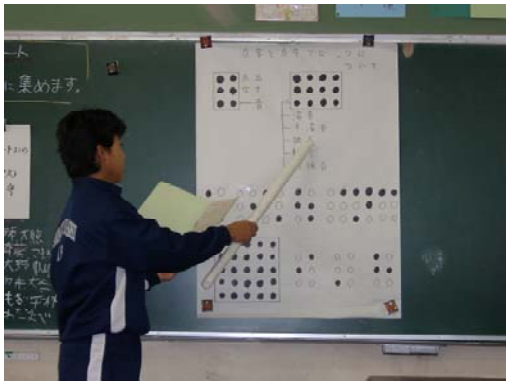
＊平成１２・１３年度川口市教育委員会研究委嘱
テーマ『生きる力を育む指導法の工夫』
－新しい教育課程に向けて－

平成１４年４月から施行された新学習指導要領を念頭に入れ、「特色ある教育」を展開し、生徒の豊かな人間性や自ら学び、自ら考える力などの「生きる力」を育むという基本的な考え方に立ち、国語・保健体育を中心として、各教科で取り組みを行った。とくに国語科では「伝え合う力を高める学習指導の工夫　－論理的な思考力の育成を目指して－」をテーマに研究を進め、全校生徒による『私の主張コンクール』等の取り組みを行った。自分の意見を発表する場を設定することで、生徒に考えを表現する力を身につけさせるとともに、人に聞いてもらうことで発表する力が養われた。このコンクールは継続して毎年取り組んでいる。

＊平成１５・１６年度川口市教育委員会研究委嘱
テーマ『自分の思いを生き生きと表現できる生徒の育成』
－発表の場とそこに至る過程の工夫を通して－

テーマをもとに「総合的な学習の時間」の研究に全校体制で取り組んだ。本校では、総合的な学習の時間を「東風タイム」として、次に示す生徒像を目指して研究を進めた。

・自ら課題を発見し、課題追求を通して学び方・ものの見方を身につけ、主体的に課題解決に取り組む生徒
・自己の思いや成果を生き生きと表現できる生徒



生徒は学年ごとに設定したテーマをもとに課題設定、課題追求、まとめ、発表準備の順で取り組み、成果を発表する。発表は①クラス発表（各教室での発表）、②学年発表（ステージ発表）、③全校研究本発表（ステージ発表＋教室発表）の順で行われる。この取り組みを毎年、検討を加えながら行っている。

３）総合的な学習の時間（東風タイム）との関連から

本校の教育の全体テーマは『生きる力を育む指導法の研究』であり、前項で述べた通り、本校では総合的な学習の時間（東風タイム）として取り組んでいる。

東風タイムでの各学年の取り組み内容は次の通りである。

・１学年：「地域に学ぶ」－地域を題材にして身近なテーマ・課題等を充実させるとともにフィールドワーク、ものの見方を身につけさせる。
・２学年：「福祉・ボランティア」－福祉・ボランティアを題材にし、興味・関心のある分野について調査・研究し、発表の実践的な力を身につけさせる。
・３学年：「卒業研究」－１年、２年次に培った力をもとに、自分の興味・関心のあるテーマを設定し、本格的な追求活動・発表活動のできる生徒を育成する。

４）学校行事との関連から

本校では、今までに「生きる力」を日常の教育活動において、いかに身につけさせるかを大きな課題として取り組んできた。東風タイム（総合的な学習の時間）、私の主張コンクール、校内英語弁論大会等を通して、自分の考えや研究テーマを設定し、調査・研究、資料収集、まとめ、発表の過程を生徒一人ひとりが取り組むことが「生きる力」を育むことにつながると考えている。ここに具体的な取り組みをあげる。

＊私の主張コンクール（国語科）

生徒は身の回りのことなどで普段から感じていることや疑問をもとにテーマを設定、追求し、思いや考えを深め、まとめていく。発表は各クラスで全員が行い、代表者は学年発表、全校発表を行う。発表は２、３年生になるにしたがって、内容も濃いものとなり、自分の思いや考えを表現する力を身につける生徒も多く見られるようになった。また、大勢の前で堂々と発表する生徒も増え、自信にもつながっている。

＊校内英語スピーチコンテスト（英語科）

生徒は弁論、暗唱のどちらかを選択し、全員が発表を行う。とくに英語に自信がある生徒や何か話題を持っている生徒は弁論を選び、楽しく取り組んでいる。これも私の主張コンクールと同様に、学年があがるにつれて、自信を持って発表する生徒が増え、内容も充実したものが多く見られる。

＊夢ワーク（社会体験学習）

毎年、１学年を対象として、３学期に職場体験学習を行っている。地域の事業所の協力のもとに、生徒は希望する職種を選択し、3 日間の活動を行う。最初は、はじめての体験活動にとまどいを見せながらも、一人ひとりの生徒が伸び伸びと活動する姿が多く見られた。実際の職場体験や事業所の方々の話を通して、生徒ははたらくことの意義や大変さを感じ取ったようである。具体的な活動は以下の通りである。

・事業所数　　４１カ所
・職種別　－　園芸、公共、建設、製造、販売、飲食、幼稚園、小学校、福祉、消防、郵便、病院、寺等
・保護者の意見
　－　親や先生とは違った大人と接することで、社会における責任のようなものを感じ取ったと思う。
　－　子供たちがそれぞれ生き生き仕事をして、大きな声であいさつをしている姿を見て、よい活動だと思っています。
・事業所の意見
　－　子供と親密になり、３日目に別れが惜しくなった。（子供は）自分から活動していた。

－　３日間という短い期間ではあったけれど、子供たちのはたらく姿はとてもすばらしかったです。

・課　題

－　生徒にとって貴重な体験だけに、生徒の希望を活かした施設・事業所の確保が困難になりつつある。

－　校内の行事が過密になり、体験活動のための最適な３日間を確保することが難しい。

Ⅲ．修学旅行までの取り組み

テーマ設定の理由から、本校のこれまでの取り組みでは、『生きる力』をいろいろな場面を通して育むことを目標に活動してきたが、修学旅行においても、何を通してこの『生きる力』をつけていくかが課題となった。

そこで、校長・教頭・教務主任・学年代表からなる修学旅行実行委員会を新たに設け、学校全体で取り組むことを確認した。

＊修学旅行とリンクした１・２・３年次の総合的な学習の取り組み

・１年次【地域に学ぶ】

自分が住んでいる地域に何があるか、どんな地域なのか等を、各班がテーマを決め調査をした。また、地域の方にインタビューをするなど、取材方法や情報収集のやり方を学んだ。発表は各自が地域新聞を作成し、発表した。

＜成果と課題＞

○フィールドワークを通して、地元の特徴等を認識することができた。

○取材方法や情報収集のやり方を学ぶことができた。また、インタビュー前のアポイントメントの取り方などを通して、電話のかけ方等のマナーを学ぶことができた。

・２年次【福祉・ボランティア】

川口市社会福祉協議会と連携し、車いすや高齢者疑似体験等のいろいろな体験活動を通して、福祉・ボランティアについて考え、これらの経験をもとに生徒一人ひとりがテーマを設定して探究活動を行った。発表方法については、各自がいろいろな方法を考え行った。

＜成果と課題＞

○体験を通して、ハンディキャップがあることの大変さを知るとともに、その方々に対しての環境がまだまだ整っていない現状を理解することができた。

○テーマ設定、探究活動を通して、自分たちにできることは何かを考える生徒が見られた。

○発表方法に工夫が見られた。発表を通して自信がついた。

また、修学旅行に対する意識づけや準備のために、２年次での学習内容を２学期中に終了させ、３学期から修学旅行へ向けての取り組みを始めた。

・３年次【卒業研究】

１、２年次に培った力をもとに、自分の興味、関心のあるテーマを決め、より深く調査・情報収集・まとめをできるようにする。

また、修学旅行での京都伝統産業体験学習を通して、自分の将来を見つめるきっかけとする。

＜成果と課題＞

○修学旅行での京都伝統産業体験学習を通して、京都の伝統、文化のすばらしさを体験することができた。

○京都伝統産業体験学習を通して、自分の将来を見つめる大きな体験となった。

○京都伝統産業体験学習を今後どのように、系統的、体系的に教育活動に活かしていくかが課題である。

Ⅳ．修学旅行の取り組み

１）事前（２年次）の取り組み

＊本校でのこれまでの教育活動をふまえ、年度当初に教師による修学旅行実行委員会を設け､修学旅行全般について討議した。この実行委員会の話し合いとともに、学年の現状をふまえて、計画を具体化していった。

＊今回、京都伝統産業体験学習で協力いただいた、植柳学区自治連合会長さんと、修学旅行での体験活動の取り組みについての連絡を取り合った。

＊京都社会福祉協議会と『京ことば』学習についての連絡を取り合った。

＊生徒は２年の３学期から修学旅行へ向けての取り組みを開始した。事前学習として『奈良・京都』について各自がテーマを決め、調査・まとめを行った。

＊事前学習は次の通りである。

①事前学習の期間、内容

１月２５日　－　修学旅行の目標・概要説明・テーマ決め
２月　１日　－　テーマ決め、資料収集
　　８日　－　資料収集、まとめ、新聞作成
　２２日　－　資料収集、まとめ、新聞作成
３月　８日　－　新聞発表会

②修学旅行当日の日程を知る。

③当日までの取り組みの内容を知る

④事前の調べ学習に取り組む。

・京都の文化や歴史について、個人でテーマを設定し、学習に取り組む。

・調べた内容を『京都新聞』にし、掲示する。

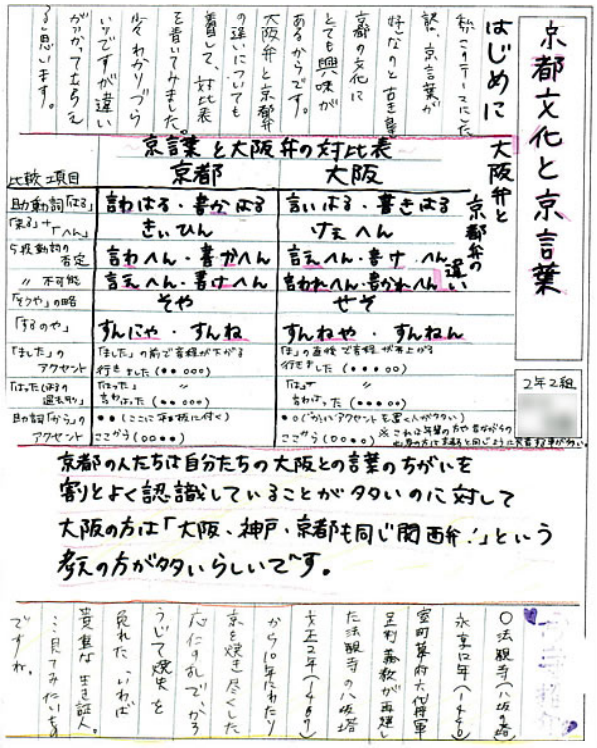
＜テーマの参考資料として次のような内容を提示した＞

○歴史的建造物（寺社仏閣）　○歴史的な人物　○昔と今の交通
○昔の庶民の生活について　○京都の産業について
○京都の特産物　○京都駅について
○観光について　○京都の河川について　○その他

－生徒の作品－

生徒の発想は実に豊かである。私たちが思いもつかないことをテーマとし、追求した。

「京都のいろいろな祈願地蔵」、「京都の紅葉」、「京都の巡り方」、
「徳川家と豊臣家が建設した有名なお寺の歴史」、「京都のことば」
「京都三大祭り」、「京都の観光名所ＢＥＳＴ１０」、「京都の道路」
「手まりうたの秘密にせまる」、「五条大橋の歴史と弁慶と義経の戦い」等



２）事前（３年次）の取り組み

３年次にクラス編成をする関係上、新年度に生徒の実行委員会（各クラス男女１名）を組織し、計画を進めていった。

＊日程　６月２、３、４日（土、日、月）

１日目	奈良	奈良公園、東大寺、薬師寺
２日目	京都	京ことば学習、班別行動（タクシー）、妙心寺での座禅体験
３日目	京都	京都伝統産業体験学習、市内班別行動

＊目標

①日本の伝統文化に触れ、文化遺産の大切さを知る
②クラス行動、班行動を通じてお互いが協力し、友情を深める
③社会的ルールやマナーを守り、健康で安産な修学旅行を体験する

＊実行委員会が立てた目標

・京都の美をあふれんばかりに味わう
・時間を守り、礼儀正しい振る舞いをしよう
・体験学習を成功させよう

＊取り組み日程と内容

４月１７日（火）	第１回実行委員会	→正副委員長、日程説明、目標設定
２０日（金）	第２回実行委員会	→班・係決め、ルールの確認、検討
２５日（水）	学年集会	体験学習の説明
	第３回実行員会	→体験学習先決め
２７日（金）	係会議	→係の仕事の確認、体験学習の提示
		事前学習
５月　１日（火）	修学旅行保護者説明会	
１１日（金）	２日目班別行動コースの決定	
１４日（月）	第４回実行委員会	→しおり原稿締め切り、部屋割り決定
１８日（金）	第５回実行委員会	→体験学習事前学習
２１日（月）	しおり	
２５日（金）	体験学習の事前学習まとめ	
２８日（月）	第６回実行委員会	→しおりの読み合わせ
	班長会	
６月　１日（金）	事前指導、荷物発送	
２日～４日	修学旅行	
８日（金）	学年集会	
１５日（金）	第７回実行委員会	→反省会、
		まとめ（新聞づくりへの取り組み）
２２日（金）	礼状・新聞つくり	

＊京ことばの学習会

これまでの「東風タイム」（総合的な学習の時間）の取り組みの経験から、修学旅行中に京都ならではの体験ができるかどうか、京都市社会福祉協議会と連絡をとり合い、いろいろ検討したところ、協議会から『京ことばの会』を紹介された。本校の『生きる力』を育む教育の一環として１年次の総合的な学習の時間に、「地域に学ぶ」をテーマとした学習活動があるが、私たちになじみのある、そして私たちがよく耳にする京ことばを学習することにより、私たちの地域（地元）のことばを振り返るよい機会と考え、この取り組みを行った。

実際の体験としては、京ことばの歴史、現在使われていることば、御所ことば、京ことばでの朗読を学習した。朗読の迫力の中に、京ことば独特の響きは生徒を魅了した。

－生徒の感想（お礼の手紙より）－

先日の京ことばの学習の時間では大変お世話になりました。京ことばの学習をして、京都のすばらしさや歴史を再認識することができました。とくに「鬼の手」の朗読は、「すごい」の一言でした。あんなに表現して、さらに、京ことばで朗読する中島さんは、本当にすごいと思います。

また、前半の学習では、普段私たちが何気なく使っていたことばが実は『京ことば』だったことや歴史と深い関わりがあったことなど、驚きと発見の連続でした。

この学習を通して、私たちの住んでいる地域のことばにとても興味を持ちました。京都の人と同じように、自分が住んでいる地域のことばにほこりを持っていきたいなと思いました。短い時間でしたが、とても貴重な体験をさせていただき本当にありがとうございました。

＊京都伝統産業体験学習

京都は長い間、日本の中心として発展し、その伝統文化は現在にも継承されている。ことに植柳学区自治連合会の寺内町は桃山時代に本願寺が京都の地に移転されて以来、５００年にわたり、本願寺と関係が深い仏具、法衣、御香その他、多くの店が京都伝統産業を今に伝えている。その日本の古都・京都の寺院・工匠の技が受け継がれている各事業所で体験学習ができることは本当に意義深いものと考え、今回の修学旅行のメインの一つとした。ここでは寺院、仏具製造販売、表具、和紙販売、御香、法衣製造販売、豆腐製造、旅館、漬け物店等の２２事業所に協力を

いただいた。生徒は普段、経験できない貴重な体験を通して、日本の歴史・古都京都への理解を深めることができた。

＜京都伝統産業体験学習、事前学習の取り組み＞

１）植柳学区自治連合会長さんとの連絡
２）体験学習班分担決め
３）事前学習　　－　仕事内容や取り扱っている品物から、追求していく。
４）現地での体験　－　説明を聞く、体験、インタビュー。
５）まとめ　　－　しおりをまとめる。

＜生徒の３）、４）、５）のまとめ例①＞

・店名　－　土屋念珠店　　・業種　－　京念珠製造卸
・仕事の内容　－　念珠をつくる。念珠を販売する。
・仕事について詳しく調べる。

数珠の素材は大きくわけて２種類ある。
・木の素材　－　黒檀、紫檀、鉄刀木、白壇、つげ、梅
・木の実　　－　星月菩提樹、金剛菩提樹
・石の素材　－　水晶、メノウ、ヒスイ、珊瑚、オニキス

月星菩提樹は数珠に使われる代表的な木の実で珠の表面に細かい斑点があり、星を象徴する小さな穴と月を表す穴がある
また、羅漢や骸骨を彫った数珠やお寺の改築の時に出た古材で加工された数珠を記念品として配ることもある。

・インタビューは
・いつからこの店はあるか　－　３代目で、大正時代から創業している
・一日に何個つくるのか　－　20 ～ 30 個、安いものは 100 ～ 200 個
・念珠の原材料はどこの国から輸入されるか　－　中国、日本のものは高い
・念珠をつくる時の道具は　－　ハサミ、めうち、物差し、金具

・念珠の種類は　－　300 ～ 400 くらい
・一つの念珠をつくるのに必要な時間はどのくらいか　－　10 ～ 30 分
・仕事をしていて一番つらかった事　－　なれるまでつらい
・良かったことは何ですか　－　喜んでもらえる
・生きがいは何ですか　－　みんなに喜んでもらえる事
・私たちへのアドバイス　－　何事にも『根』がいる

＜生徒の３）、４）、５）のまとめ例②＞

・店名　－　京漬物西利　　・業種　－　京漬物製造卸
・仕事の内容　－　京漬物製造販売
・仕事について詳しく調べる
　漬物の種類は生しば漬、あじすぐき、さくら漬、ゆず白菜、千枚漬など
　漬物は季節によって変わる。春は菜の花漬、夏はしば漬、冬は千枚漬、すぐき
・インタビューは
　・現代で何代目か　　－　3代目
　・つらかった事、良かった事－　仕事を覚えるまでがつらい。商品積み。
　　毎年きてくれる客がいる
　・一日に売れる数は　　－　２５００本売れる
　・生きがいは何ですか　　－　接客している時に感じる
　・どんな種類が売れるか　　－　ナス、大根が一番売れる
　・私たちへのアドバイス　　－　何事にも『根』がいる

このように生徒は自分たちで調べ、実際にその仕事を体験（見学のみの職場もあった）し、インタビューをした。この体験活動を通して生徒は京都の伝統的産業の奥の深さと、それを継承する意義・喜びを感じ取ったようである。

この京都伝統産業体験学習と１学年で体験した夢ワーク（職場体験学習）等を通して自分の将来を考え、中学卒業後の進路に活かして欲しいと考えている。

最後に、お世話になった寺院、店舗への感謝のことばを修学旅行実行委員長が送ったが、その一部を掲載する。

～前略～

私たち東中学校３年生は埼玉県では絶対に味わうことができない京都の伝統工芸、お寺での修行などの一部を体験する事により、京都の誇り高い伝統文化に少し触れる事ができました。また日本文化の深さ、趣を少し体得できたように思います。

この体験はいろいろな職種にわたり、私たちの希望に沿ったものなので興味をもって体験できたと思います。もちろん生徒の数が多く、思い通りの職種ではなかった人もいましたが、体験学習後に「良かった」と言っていました。とても有意義なものになったと思います。今後私たちの職業選びに生きてくると思います。

～後略～

生徒は２泊３日の修学旅行の思い出や貴重な体験学習を新聞にし、廊下に掲示して、一人ひとりの修学旅行をみんなで享受し合った。

Ｖ．まとめ、課題

『生きる力をはぐくむ修学旅行』というテーマを設定し、この『生きる力』を意識しながら、準備段階から一つ一つのことに対して生徒を主体に取り組んできた。

京ことば学習会では、ほとんどの生徒が講師の話に対して真剣に耳を傾け、学んだ京ことばを市内のお店で使っていた生徒も見受けられた。また、京都伝統産業体験学習では、埼玉では絶対に経験できな体験ができ、京都の伝統文化の深さを強く感じた生徒が多く見られた。京ことばを学習し、京都の伝統産業を地元の方と交流しながら体験する中で、あらためて地元埼玉を振り返り、さらには自分の生き方を考えるよい機会になったのではないかと考えている。

＜生徒の修学旅行の感想＞

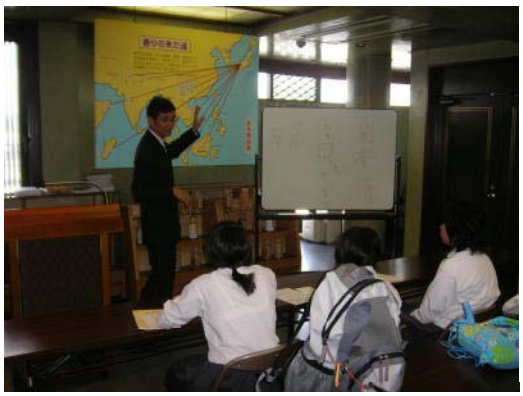
・今日は京都最後の日でした。帰りたくなかったけど、、、もう少し居たかったです。体験学習は本山興正寺で、本堂の雑巾がけをし、楽しかったです。

・体験学習では豆腐製造の『京の雪本舗』にいきました。そこでは豆腐や『とうふりーむ』というアイスをいただきました。いろいろな工夫なども聞くことができました。楽しい一日でした。

・今日は最終日だった。体験学習は宗教織物で、織るのを体験した。難しかったけれど楽しかった。３日間は楽しかった。

・体験学習では漬物について詳しくいろんなことを知ることができて良かったです。京都の漬物はあっさりしていて美味しかったです。京都に来たら、また食べたいです。

・今日は和泉屋旅館にいって体験学習しました。旅館についての話を聞いたり、料理でキュウリを蛙の形にきったりする体験をさせていただきました。楽しい一日でした。



＜今後取り組むべき課題＞

①十分な取り組みの時間の確保

学校行事や日頃の仕事量などを考えると、なかなか修学旅行の取り組みに十分な時間を確保することができなかった。

②京都伝統体験の事前取り組み、事後のまとめの充実

事前に京都の伝統や体験内容について十分調べた上で実際に体験し、事後にまとめを行うことで、仕事の本質、伝統産業の奥深さを認識させられたのではないか。

③地元埼玉を振り返る機会の設定

地元埼玉の伝統や日頃関わりのある仕事との関連づけを行い、振り返る機会を設定できると、より体験を活かすことができたのではないか。

最後にこの修学旅行を通して、生徒にとって生きる力が培われ、将来の生き方を考える糧になることを期待している。

「現在・過去・未来、そして自分を見つめる修学旅行」

～総合的な学習の時間とリンクした実践的な取り組みを通して～

行田市立埼玉中学校　教諭（学年主任）　桜井　信雄

１、はじめに

２、テーマについて

３、研究の実践

(1)総合的な学習の時間とのリンク

ア、３年間を見通した総合的な学習

イ、総合的な学習の時間と学校教育諸活動等とのリンク概念イメージ図

(2)１、２年での取り組み

ア、スキー林間（１年）

イ、川越一日探検（２年）

ウ、クリーンアップ大作戦（２年）

エ、職場体験と上級学校訪問（２年）

(3)３年での総合的な学習の時間の取り組み

ア、オリエンテーションの大切さ

イ、事前学習と事前指導

(4)１８年度修学旅行の概要

ア、日程

イ、班別コース

ウ、個人と班のテーマ及びコースの関係

(5)キャリア教育と体験学習の場としての「私のしごと館」

ア、そのコンセプト

イ、体験学習の一覧と実際に体験した講座

ウ、利用してみて

(6)事後指導の充実

ア、修学旅行をふりかえって

イ、旅行後のまとめと発表

(7)環境及び防災学習としての取り組み

ア、１７年度　環境やエネルギーの未来を見すえた愛地球博を取り入れた修学旅行

イ、１９年度　地震や災害に対する意識を高める奈良・京都・神戸の修学旅行

４、成果と課題

１、はじめに

本校は行田市の南部に位置し、まさに埼玉県名発祥の地「埼玉（さきたま）」にある、緑豊かな自然に恵まれた、生徒１７２名の小規模校である。学区には国宝辛亥銘鉄剣出土の稲荷山古墳を含む我が国有数の大型古墳群が存在し、「さきたま風土記の丘」として古墳公園があり、地域をあげて世界遺産への登録を進めている。生徒は素直で、埼玉小一校からそのまま中学校へ入学し、９年間一緒に生活しているため、お互いよく理解し合っている。反面、他の世界からの刺激が少なかったり、人間関係作りが得意でないなどの課題が存在するのも事実である。

平成１７年度から『埼中教育改革元年』として２学期制の導入や２１ｋｍ耐久ウォーキング大会の実施等の目に見える改革を進めてきた。修学旅行についても、先進的な校長先生の考えで１７年度「愛地球博」、１８年度「私のしごと館」、１９年度神戸見学という新たな試みが取り入れられた。このような流れと生徒の実態を踏まえ、総合的な学習の時間とリンクした修学旅行の実践を報告したい。

埼中３つのほこり

１、あいさつがよくできる
２、学校がきれいだ
３、けじめある生活ができる
（時間と服装）

校訓　「本気でやれば何でもできる」

２、テーマについて

現在・過去・未来、そして自分を見つめる修学旅行」

～総合的な学習の時間とリンクした実践的な取り組みを通して～

現在、交通網の発達により、生徒の旅行の機会は昔に比べ格段に回数も多くなり、広範囲になっている。修学旅行も京都、奈良の伝統文化に触れ、様々な体験学習をするのでは、楽しい思い出で終わってしまう。そのためには、総合的な学習の時間との有機的な関連を持たせた取り組みは不可欠であり、３年間を見通した取り組みでなければならない。

確かに従来の伝統文化に触れ、様々な体験学習をすることにも意義があり、一生の友と一生の思い出作りをすることも大いに修学旅行の目的のひとつである。しかし、修学旅行がそれだけで存在するのではなく、３年間の学習の総括であり、また新たな学習と体験の場であり、それが未来の自分に生かせるものであって欲しいと思う。行事があるからやるのではなく、目の前の子ども達に知ってほしい、学んでほしい、味わってほしい、そして身につけてほしいことがあるからこそ、絶好のチャンスとして意図的な行事を企画して行かなければならないと考える。

今までも「自分探しの旅」として、有意義な学びと体験のできる修学旅行を目指し、取り組んできた。そして今回、自分だけでなく、自分が今生きている社会、地域、家庭の現在・過去・未来も見つめて、その後に生かすための学びができる旅を目指し、ひと工夫加えてみた。そんなちょっと欲張りな修学旅行に挑戦してみることで、また新たな修学旅行の形が見えてくると信じて。

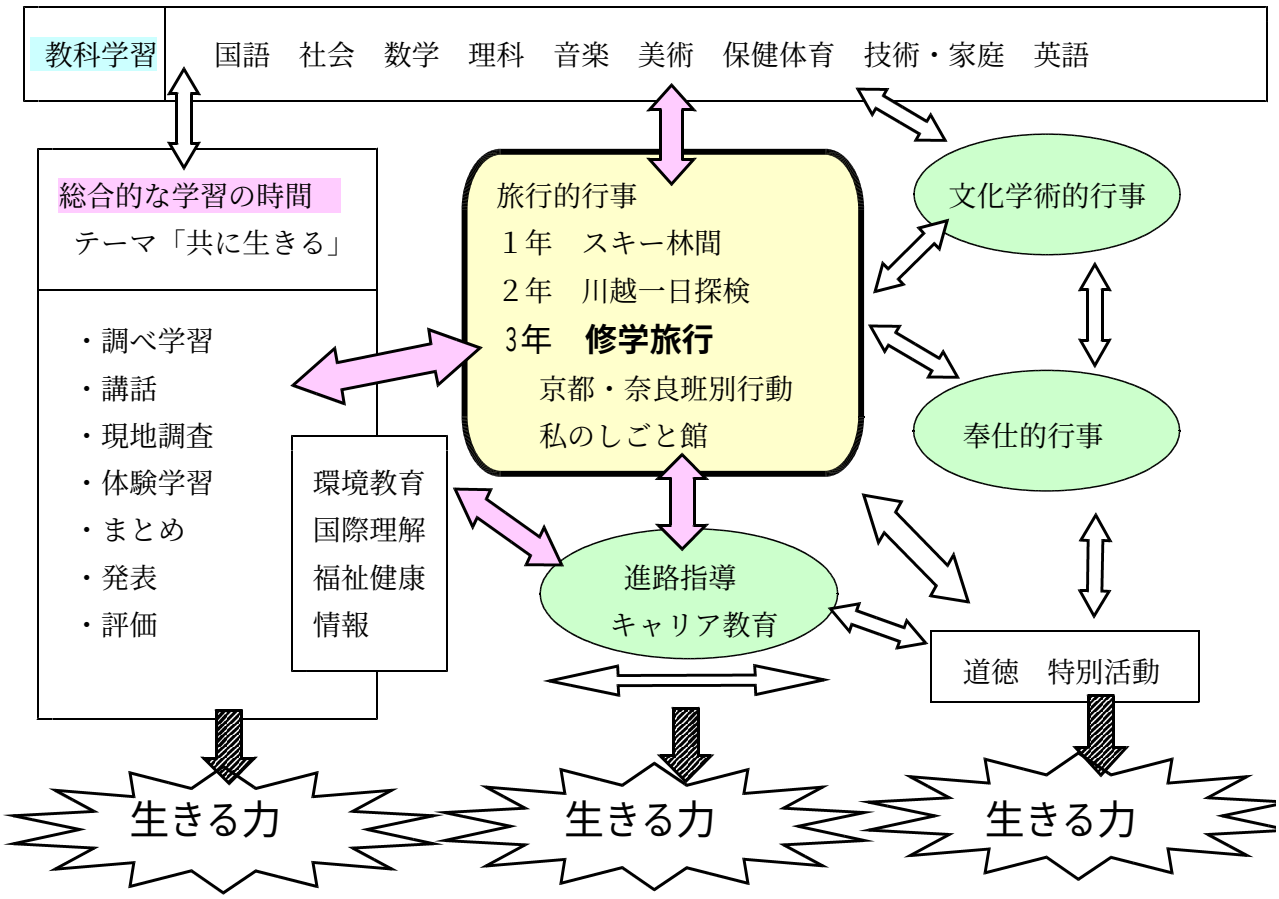
3、研究の実践

(1)総合的な学習の時間とのリンク

ア、３年間を見通した総合的な学習の時間　（学校テーマ「共に生きる」の学習の流れ）

		学習の主な柱及び内容	学級活動及び学校学年行事等との関連
1年	地域を知る 70ｈ	・基礎講座「学び方を学ぼう」 ・地域を知ろう（校外学習） ・テーマ学習 ・障害について学ぼう ・地域を知ろう（他の地域との比較）	○校外学習 ○養護学校との交流会 ○スキー林間（嬬恋高原）
2年	地域と生きる 85ｈ	・地域の環境の実態を知ろう ・県内の他の地域を知ろう ・地域の高校を知ろう ・福祉についてもう一度考えよう ・「働くこと」を学ぼう ・地域の働く人から学ぼう	○クリーンアップ大作戦 ○川越一日探検 ○上級学校訪問 ○養護学校との交流会 ○職業講話 ○職場体験
3年	未来に向かって 95ｈ	・学びの目を世界に ・自分を知る ・福祉体験 ・テーマ学習 ・情報発信	○修学旅行 ○自己分析 ○目かくし散歩、車いす体験等 ○メディアを活用した発表 ○卒論の制作　製本

イ、総合的な学習の時間と学校教育諸活動等とのリンク概念イメージ図



(2) １、２年での取り組み

ア、スキー林間（１年）

嬬恋高原を舞台に、スキーと大自然、そして行田との地域の違いをテーマ学習の柱として旅行的行事を関連させて取り組んだ。１月に実施のため、１１月から総合的な学習の時間とリンクさせて学習計画を立てた。ビデオで動機付け、課題設定、調べ学習、現地調査、まとめ、発表のプロセスを体験させることができた。スキー技能の習得だけでなく、実行委員のリーダー指導、クラス作り、集団作りにも役立った。

イ、川越一日探検（２年）

駄菓子屋横町での交流

３年次の修学旅行へつなげるべく、実行委員会を組織して、川越を舞台にテーマ学習と旅行的行事を関連させて取り組んだ。５月に実施したため、クラス作り、集団作りにも役立った。

川越一日探検　行動計画一覧

班	班　別　自　主　行　動　の　コ　ー　ス
１－１	甘味あかりや→亀屋本店→時の鐘→資料館→大沢家→駄菓子屋→てんこもりラ→喜多院
１－２	本川越駅→芋十→喜多院→頑者→時の鐘→駄菓子屋横町→蓮馨寺→てんこもりラーメン
１－３	熊野神社→三芳野神社→氷川神社→広済寺→蔵の町並み→時の鐘→ラーメン屋→駄菓子屋
１－４	蔵の町並み見学→喜多院→川越菓匠くらづくり本舗→花万木→時の鐘→カフェエサゴーノ
１－５	川越八幡宮　→　花万木　→　幸町
１－６	りそな銀行→時の鐘→蔵造り資料館→甘味かすが→駄菓子屋横町→マスコ→甘味あかりや
２－１	時の鐘　→　倉造り資料館　→　お祭り会館　→　頑者　→　駄菓子屋横町
２－２	コンビニ　→　駄菓子屋横町　→　川越歴史博物館　→　喜多院
２－３	妙善寺→時の鐘→　駄菓子屋横町→　見立寺→　菓子屋の近くの店→　福呂屋→　おさつ
２－４	歴史博物館　→　喜多院　→　コンビニ　→　公園　→　駄菓子屋横町
２－５	中央通り→倉造り資料館→時の鐘→大八勝山→駄菓子屋横町→はるり銀花→かめ屋
２－６	中央通り→熊野神社→蔵の町並み（時の鐘）→うどん処春夏秋冬→駄菓子屋横町→喜多院

ウ、クリーンアップ大作戦

１６年度は地域にある市のクリーンセンター見学と関連させたが、１７年度は地域の方と協力して学区内のゴミ拾いの清掃活動を通して環境を考える機会を持った。生徒は集まったゴミの多さや、悪質なポイ捨ての実態、モラルの低下等を体で感じることができた。そして、地域の一員として、ゴミを出すことの意味をつかんだようだった。

＜２年総合的な学習の時間　（地域との共生イメージマップ）＞

この資料を使ってテーマ設定の参考にさせた。

エ、職場体験と上級学校訪問

平成１７年度職場体験学習でご協力いただいた事業所は下表の通りである。キャリア教育では、生徒一人ひとりに望ましい勤労観や職業観を育成することが必要である。そのためには、「体験に勝る学習なし」である。

本校では２年次に３日間職場体験を実施し、地域で働く人の姿を見て多くのものを学ぶ機会を持っている。事前学習として、行田公共職業安定所ハローワークからジョブサポーターの職業講話を聞いたり、ＮＨＫの職場体験を扱った「大人ってすごい」や「明日をつかめ　平成仕事図鑑」の番組を視聴させた。これらの取り組みにより、「働くことの大変さと大切さ」を学ぶことができるとともに、自分（達）の住む地域で、このように働いている人がいるからこそ社会が成り立っているという実感が持てたことがとても大事だった。自分のなりたい職業だけを追い求めるだけでなく、「社会の中の自分」の役割に気づかせることで「働くこと」を意識させたいと考えた。

＜平成１７年度　職場体験学習でご協力いただいた事業所＞

	職　種　別	事業所名	職場体験学習の内容	人数
1	食品製造	まにわ製麺	製麺の製造　　袋詰め	2
2		ホリーズ	パン製造、販売	3
3	飲食業	ゆもと	フロント手伝い、ホール手伝い、清掃	3
4	建設業	鈴和建設	測量、現場での作業	4
5	自動車整備	トミタ自動車	洗車、タイヤ交換、工場の整理	4
6	園芸業	山本園芸	花の手入れ、鉢植え等	4

7	販売業	ベルク行田　南店	店の掃除、包装、商品の陳列	3
8		アピタ吹上店	パック詰め、商品陳列	3
9		小山商事リカリッシュ	掃除、包装、商品の出し入れ、レジ	2
10	保育関係	やなぎ幼稚園	教諭の補助（紙芝居、お話）	3
11		埼玉保育園	保育士の補助	3
12	医療関係	ヘリオス会病院	ベッドメイク、食事介助	3
13		行田協立診療所	デイサービスのお手伝い	3
14	社会福祉施設	川里苑	リネン交換、食事介助、入浴介助	2
15	公共施設	行田消防署（本署）	救助訓練、体力づくり	2
16		行田市郷土博物館	資料の整理、文化財の清掃	3
17		行田郵便局	郵便物の仕分け、事務お手伝い	2
18		行田図書館	本の貸出し、返却、本を書庫に戻す	3
19	美容関係	ヤマギワ美容院佐間店	清掃、洗濯、美容業務など	3
20	情報通信	行田ケーブル TV	番組作り、編集	3

スーパー

介助

消防署

体験を終えて、学年で発表会を行い、優秀な班が PTA の席でステージ発表した。消防署から実際に借りてきた防火服の早着替えや車椅子の介助の仕方を実演したり、コンピュータを効果的に使って発表できた。発表会では「発表名人をさがせ」という評価表で相互評価し合い、プレゼンテーションの力を高められるよう配慮した。

＜１７年度上級学校訪問校＞

また、平成１７年度の埼玉中学校第２学年上級学校訪問校は右表の通りである。生徒からあらかじめ訪問したい高校をアンケート調査し、希望の多かった私立高校と公立高校を２校組み合わせ、１２のコースを作成し、生活班で選ばせた。自分の進学したいというだけでなく、地域にある上級学校の調査と報告が一番の目的であることをおさえさせた。

そのため、事前学習として３年生から高等学校のパンフレットを借りたり、インターネットのホームページを見て調査をまとめ、質問を考えて訪問させた。そして、帰ってきた生徒の、目を輝かせて興奮ぎみに高校の様子を話す姿が印象的だった。訪問後は報告レポートをまとめて廊下掲示し、クラスで発表会を開いて情報の共有化を図った。

	訪問校 （コース順）	
1	春日部共栄	羽生実業
2	佐野日大	羽　生
3	成徳深谷	不動岡
4	上　尾	埼玉栄
5	花咲徳栄	羽生第一
6	熊谷工業	本庄第一
7	足工大	進修館
8	本庄東	熊谷農業
9	正智深谷	熊谷商業
10	熊　谷	農大第三
11	伊奈学園	栄　北
12	大宮開成	鴻　巣

(3) ３年次　総合的な学習の時間の取り組み

ア、オリエンテーションの大切さ

導入の意識づけ、見通しをもたせることにも力を入れた。　　配布資料（抜粋）

クリエイト Myライフ 2006

学年テーマ　『共生　－ 未来に向かって －』

前期テーマ「広げよう！学びの目を世界に」

後期テーマ「自分を見つめ　創造しよう！　新たな自分」

１コンセプト（基本構想）

昨年は前期で川越一日体験で埼玉の他地域との比較、クリーンアップ大作戦で環境について学び、後期は上級学校訪問と職場体験で自分の未来を意識できました。では今年は、さらに日本や世界へと視野を広げ、それらを自分の未来に役立てる学習を行います。そして、各自のテーマを設定し、いろいろと調査研究したことを自分の未来と結びつけて、新たな考えや価値を付け加えて情報発信していきましょう。

２ねらい

(1)自分の進路を切り開いていくために、将来の自分に役立つ情報を過去の歴史や現状から学ぶために興味・関心のあるテーマを設定し学習を深める。

(2)京都、奈良の伝統文化の学習課題を設定し、修学旅行時にフィールドワークや体験学習を行い、課題解決をしていく。

(3)意外と知っているようで知らない本当の自分の姿。自分自身を見つめ直し、将来の自分を設計・創造していく。

(4)思っていること、考えていることをまとめ、わかりやすく表現する能力を高める。

３学習計画

＜前期＞　視野を広げよう

昨年、地元行田と川越を比較して地元を見直したり、再発見したこともたくさんありました。それでは範囲をさらに広げたらどうでしょう。今度の修学旅行では、その調査や体験の絶好のチャンスです。　学習の流れは以下のようになります。

事前学習 →テーマ設定・学習計画→調べ学習→修学旅行での追究または体験学習→まとめ→発表

※福祉や人権についての学習も含む

＜後期＞　未来に生かそう

※自分の将来や就きたい仕事に関する個人テーマを設定して学習を進める

※自分史のまとめと情報発信（卒業論文として）

学習計画＜前期＞

月　日（曜）	学　校　行　事	学　習　計　画
4月　２０（木）		・オリエンテーション　事前学習
２１（金）		・テーマ設定　ジャンル選択　学習計画立案
		・班行動コース作り
5月　１１（木）		・コース検討・修正
１２（金）		・コース最終決定
１８（木）		・事前学習
１９（金）		・質問・疑問集約　課題整理
２５（木）	修学旅行～２７（土）	・調査研究、現地学習、体験、検証等
6月　１（木）		・結果の集計、データのまとめ、課題解決
２２（木）		・修学旅行のまとめクラス発表（各班）
２３（金）		・発表名人（班）選出
１２(水)		・福祉、人権について　調べ学習
		・夏期休業中にも課題を進める
9月　２２（金）	期末ＰＴＡ	・ＰＴＡ　学習成果発表会（代表班）

＜提示した学習テーマと関係する職業の例＞

ジャンル	学　習　テ　ー　マ　の　例	関係する職業例
A 歴史１	①古墳対決　丸墓山対高松塚、石舞台	考古学
（奈良）	②京都と国風文化、北山文化、東山文化桃山文化を訪ねて	博物館文芸員
（京都）	③坂本龍馬の足跡をたどる　新撰組と行田	歴史研究家
B 文化１	④文学の世界に描かれた奈良、京都を巡る旅	作家、書家、芸能関係
芸能芸術	⑤舞妓さんを探せ　古典芸能と奈良、京都	美術関係
服飾関係	⑥ファッション　今と昔　そして関東関西比較	美容・服飾 編集・出版
文化２	⑦関西食文化と関東を比較　茶道のルーツを探る	調理師　栄養士
飲食業	⑧特産物、郷土料理、名物　ゼリーフライは通じる？	飲食店　パティシエ
サービス	⑨手作りに挑戦　八つ橋作り	和菓子作り　茶道家
C 建築・	①近畿地方の気候と風土と行田の住まいの違いは？	建築士　大工
造園・	②観光都市京都のゴミ問題、観光と自然保護	設計技師　都市計画
環境	③法隆寺と清水の舞台を徹底解明　木造建築の匠対決	造園業
D産業	①伝統工芸に挑戦　扇子、友禅染、清水焼 etc	工芸　服飾関係
観光・	②関西の米づくりと京料理　京野菜	農業　調理師
商業	③京都の観光と街作りに学ぶ　行田の発展のために	観光課　販売員
E福祉・	①バリアフリーの街作り　京都、奈良の街は？	医療関係介護　福祉士
人権	②ユニバーサルデザイン　京都、奈良の駅は？	設計技師
	③標識の常識・非常識	デザイナー
F外交	①国際都市京都の目指す道　文化遺産と国際交流	外交官　ＦＡ　通訳
国際理解	②京都、奈良で外国の人と触れ合おう	英語教師　ツアーコン
文化交流	③関東の常識は非常識？　エスカレーターはどっち空け？	ダクター

＜修学旅行における総合的な時間のテーマと体験学習の考え方＞

(1)基本的な考え方

修学旅行は単なる観光旅行ではなく、貴重な現地学習のチャンスです。名所や神社仏閣を見るにも、「こだわり」や「テーマ」を持って有意義な「自分探しの旅」にしてほしいのです。学習のテーマは文化的に価値ある内容にして下さい。

(2)具体的には

１日目（半日）と２日目（１日）の班別行動と３日目（半日）クラス別行動の中で、総合的な学習の時間のテーマを追究するための時間や体験をする時間を組み入れ、有名な神社仏閣や観光地の見学と組み合わせて下さい。同じ見学地でも、テーマについて調べることや質問、疑問を持ち、見る視点がはっきりしていればわかること、感じることも違ってくるはずです。

例：　「京都、奈良の伝統工芸はいつ、どのように生まれ、いまどう守られているか？」

コース　清水寺見学→二年坂三年坂→お土産（友禅染をチェック）→京都産業物産館見学
→友禅染体験→インタビュー→お昼（湯豆腐で京料理も研究）→金閣寺見学

＜実際の修学旅行　個人テーマ例＞

「世界遺産を巡ろう」「京都･奈良の歴史について」
「京都･奈良の文化を知ろう」
「京都･奈良の文化（町並み･建造物）について」
「歴史ある京都･奈良と行田を比べる」
「京都･奈良と行田の違いを知る」
「京都･奈良の食文化の違いについて」
「伝統料理について」
「外国人とコミュニケーション」「国際交流をする」
「京都･奈良の伝統工芸品について」

【各班のテーマ】

班	奈　　良	京　　都
１－１	東大寺の彫刻を見て学ぶ	昔の建造物と今の建造物を見比べる
１－２	世界遺産を巡ろう	京都の歴史を学び　行田と比べる
１－３	奈良の歴史を学び　行動する	京都の歴史を学び　仲良く楽しく行動する
１－４	文化財を見よう	京都の街並みと行田の街並みを比較しよう
１－５	奈良の歴史を学び	京都の良さをたくさん知ろう
１－６	古き良き奈良を実感しよう	古都の街並みと現代の比較
２－１	奈良の伝統工芸を学ぼう	京都と行田の食文化のちがい
２－２	歴史ある奈良を満喫しよう	古き良き伝統を見る
２－３	奈良の文化を学ぼう	食文化を学ぼう
２－４	奈良の歴史にふれる	外国人とコミュニケーション and 文化を学ぶ
２－５	奈良の伝統とふれあおう	伝統を食う
２－６	奈良の自然と向き合い　ふれる	国際交流と京文化を学ぶ

イ、事前学習と事前指導

修学旅行での学習効果を高めるためには、事前の学習が重要である。そのため、各教科ともタイアップし、以下のような指導を行った。

①社会科で重要文化財のビデオを視聴させて、生徒の興味・関心を高めた
②テーマやコースを決める際に、インターネットをフルに活用して調べ学習
③先生方から「おすすめ見学地」をインタビューしてまとめたものを廊下掲示
④コースが決まってからは、自分達の班行動コースの見学地紹介レポート作成
⑤旅行中に外国の方とコミュニケーションを取り、証拠の写真を撮る課題を与え、そのためのワンポイント英語講座をしおりに掲載
⑥俳句コンクールに向け作り方（季語と一日一句記録用紙をしおりに掲載）
⑦写真コンクールに向け上手な写真の取り方の実例紹介と説明
（ポイントをしおりにも掲載）
⑧しおり表紙絵コンテスト

しおりの表紙絵、裏表紙絵は自分で作ることとし、技術・家庭科の時間を使って作成した。作品を掲示して生徒と保護者に投票してもらい、コンテストを実施し、最優秀及び優秀作品が職員用の表紙裏表紙となった。表紙絵には見学予定地の写真を入れたり、手書きのイラストをスキャナで取り込んだりと、修学旅行への意欲や興味・関心など生徒の思いが盛り込まれ、一人一人違う表紙のしおりを持って「自分でつくる（作る・創る）修学旅行」をスタートさせることができた。

また、紙質も光沢紙を使って豪華に仕上げたため、旅行後も大事に扱っていた。

最優秀作品 →

(4) １８年度修学旅行の概要

スローガン『共感（きょうかん）しよう　友達（ともだち）と　長（なが）い歴史（れきし）を　未来（みらい）のために』

ア、日程

＜１日目＞

6:07		7:53	10:14	11:20	15:00	15:30		18:00
北鴻巣駅→	上野駅→	東京駅→	京都駅→	私のしごと館→		奈良公園…	自由行動…宿(奈良)	
[高崎線臨時列車]		［新幹線のぞみ］		［バス］」		［バス］		

＜２日目＞

8:30				18:00
宿出発（奈良）	→	班別自由行動（奈良、京都）	→	宿着（京都）
［近鉄／ＪＲ］				

＜３日目＞

8:20		13:57	16:16	17:12	18:14
宿出発→	クラス別行動→	京都駅 →	東京駅 →	上野 →	北鴻巣
	［バス］（北野天満・竜安寺・金閣寺コース）（古代友禅苑絵付け・東福寺コース）		［のぞみ］	[高崎線臨時列車]	

イ、平成１８年度修学旅行班別コース　〔5月２５日（木）奈良編〕

	15:30	16:00	16:30	17:00	18:00
1	東大寺大仏殿	国立博物館　興福寺			宿　ホテルサンルート奈良
2		興福寺			
3		興福寺			
4		興福寺			
5		戒壇院　興福寺			
6		国立博物館　興福寺			
7		三月堂　興福寺・五重塔			
8		鹿と触れ合う　興福寺			
9		興福寺　猿沢池			
10		興福寺			
11		三月堂　二月堂			
12		春日山　五重塔　興福寺			

〔5月２６日（金）京都編〕

	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00
1	曼殊院　銀閣寺		清水寺　昼食		三十三間堂		晴明神社　二条城	
2	三十三間堂　清水寺		二年坂・三年坂		南禅寺　哲学の道		銀閣寺	二条城
3	銀閣寺　平安神宮		清水寺		昼食	建仁寺	三十三間堂	二条城
4	平安神宮　銀閣寺	南禅寺	知恩院	清水寺	昼食		三十三間堂　二条城	
5	平等院		三十三間堂　昼食	清水寺	高台寺	建仁寺	平安神宮	
6	曼殊院　銀閣寺		清水寺	昼食	建仁寺		晴明神社　二条城	
7	銀閣寺　哲学の道　南禅寺		知恩院・円山公園・高台寺・霊山観音・八坂の塔		清水寺	三十三間堂	西本願寺	二条城
8	渡月橋　天竜寺	三十三間堂	清水寺・地主神社	昼食		霊山歴史館・霊山神社		二条城
9	銀閣寺　哲学の道	清水寺	三十三間堂　昼食	京都駅	野宮神社		平野神社	
10	曼殊院　銀閣寺	昼食　哲学の道	南禅寺		二条城			
11	曼殊院　銀閣寺		清水寺　昼食		養源院　三十三間堂		二条城	
12	三十三間堂　清水寺		建仁寺	昼食	銀閣寺	南禅寺	永観堂	

ウ、個人と班のテーマ及びコースの関係

班編制は課題別ではなく、生活班とし、男女各６人の班長が立候補し、全体を考えて６ずつの小グループを作ってから、男女の班長が話し合って６つの班を編制した。これは

①修学旅行は中学校生活の延長であり、学習の場である

②総合的な学習の時間のテーマを優先させず、旅行的行事としてのカラーを重視

③旅行先での男女の協力も必要であり、その前後のクラス作りにも役立てるためである。

また、先に個人のテーマを決め、それを持ち寄ってなるべく各個人のテーマが生かせるような班のテーマ及びコースを話し合った。そうすることで、単なる京都を舞台としたオリエンテーリングにしないことと、総合的な学習の時間との両立を図った。

(5)キャリア教育と体験学習としての「私のしごと館」

ア、そのコンセプトと概要

２年次に職場体験をしたが、地元の受け入れ事業所だけでは生徒の希望やニーズに十分応えることができなかった。そのため、修学旅行のコースの中に「私のしごと館」を組み入れ、多種多様な職種の体験をさせたいと考えた。また、コンピュータで簡単に職業適性が診断できる講座も魅力的だった。さらに、現地に行かないとできない京都、奈良の伝統工芸も体験できるとあって、少ない時間で充実した体験ができると考えた。

イ、体験学習の一覧と実際に体験した講座　　＜１２：３０～１：３０ のコース＞

職種　（体験内容）	対象年齢	体験料	製　作　物	定員	参加者
宇宙開発	小学５年以上	無　料	なし（交信して作業）	１５	5
栄養士	〃	無　料	なし（栄養分析）	１６	2
ＴＶスタジオの仕事	〃	無　料	なし（ニュース番組作成）	7	
消防官	中学生以上	無　料	なし（消火）	6	
	小学５年以上	無　料	なし（車椅子介助）	２４	
雑誌編集の仕事	中学生以上	無　料	なし（雑誌誌面）	２５	3
プログラマー	〃	無　料	なし（プログラム穴埋め）	１８	5
美容師	小学５年以上	無　料	なし（ロット巻）	２４	
デコレーター	〃	無　料	なし（ｳｨﾝﾄﾞｳﾃﾞｨｽﾌﾟﾚｲ）	6	
フラワーデザイナー	〃	３００円	フラワーアレンジ	6	
ピアノ調律師	小学３年以上	無　料	なし（調律、調整）	6	1
声優	〃	無　料	アフレコ	6	
ＣＧデザイナー	小学５年以上	無　料	３Ｄデザイン	6	
建築家	〃	無　料	家模型	6	
服飾デザイナー	〃	３００円	立体デザイン画	２４	1
機械工作の仕事	中学生以上	３００円	ドライバー	6	
大型製品組み立て（自転車）	〃	無　料	なし（組立、分解）	１８	4
大型製品組み立て（家具）	〃	３００円	ＣＤラック	２４	9
印刷の仕事	小学５年以上	３００円	メモ帳	8	
小型製品組み立て（玩具）	〃	３００円	リカちゃん人形	２４	5
小型製品組み立て（時計）	中学生以上	１０００円	時計	２４	
精密機械の組み立て(ﾊﾟｿｺﾝ)	〃	無　料	なし（パソコン組立）	6	
京焼き・清水焼	小学３年以上	３００円	絵付け湯のみ	１２	
京友禅（型押し）	小学５年以上	３００円	ハンカチ	１２	１２
西陣織	小学３年以上	３００円	テーブルセンター	１０	1
奈良茶道具	中学生以上	３００円	茶せん	１２	8
奈良筆	小学５年以上	３００円	筆	１２	1
京象嵌（きょうぞうがん）	〃	１０００円	携帯ストラップ	１２	1
合　　計				３７５	５８

（※料金は当時のもので、現在は値上がりしました）

リカちゃん人形製作

象　嵌

コンピュータ適性検査

ウ、利用してみて

①施設設備の充実と体験内容の豊富さ

「しごと体験」ゾーンだけでなく、趣向をこらした「しごと探索」「歴史・未来」「じぶん発見」「しごと情報」の展示ゾーンがあり、時間が足りない程広くて、多種多彩な情報にあふれ、働くことへの刺激がたくさんある参加体験型の施設だった。

②立地条件

京都、大阪、奈良の境界に位置し、関西文化学術研究都市（京都府　精華・西木津地区）にあり、そこから奈良公園まで約２０分くらいである。実際には１１：２０に京都駅に到着し、バスで約１時間。昼食休憩、体験と見学の２時間コースをすませ、１５：３０には奈良公園で写真撮影したあと、東大寺の見学や班別自由行動ができるコースが組めた。

＜私のしごと館へのアクセス＞

●道路　◎京都南ＩＣ～京奈和自動車道～ 60 分

◎奈良～Ｒ 24 ～木津ＩＣ～京奈和自動車道～ 20 分

●電車＆バス

近鉄京都駅

京都駅　⇒⇒　新祝園駅　⇒　奈良交通バス　⇒⇒　私のしごと館前
急行 30 分　　約 8 分

近鉄奈良駅

奈良駅　⇒⇒　大和西大寺　⇒⇒　新祝園駅　⇒　奈良交通バス　⇒⇒　私のしごと館前
急行5分　　急行10分　　約 8 分

③リーズナブルな料金

入館料中学生２５０円で、貴重な体験が市価よりずっと安く、あるいは無料で体験できた。世間で言われるように、採算を度外視した豪華設備で、職業のさわりを体験するとの批判はあるものの、職業啓発に与える効果は高い。また、製作物が思い出の品として一生の宝物になった。カメラの前で自慢げに作品を見せる生徒の笑顔が印象的だった。

④簡単コンピュータ診断で自己理解

新版職業レディネステストを一斉に行い、個々に結果が印刷されて持ち帰ることができた。インストラクターの説明で、初めてでも簡単に操作でき、結果をもとに友達と将来の職業や適性について大いに盛り上がった。そして、驚いたのは、検査終了後、不登校傾向のある生徒がたった一人で見ず知らずのインストラクターに質問に行く光景を見ることができた。それだけここでの体験が、自分の将来に対する意識を高めることができた証であろう。

(6)事後指導の充実

ア、修学旅行をふりかえって（抜粋）

修学旅行を振り返って

３年　　組　　番 氏名

１、修学旅行の委員会について					
委員・係名（　　委員・係）	役職・担当（　　）				
仕事の内容と頑張ったことを書いて下さい。	自己評価	A	B	C	D
２、修学旅行中の生活について					
・時間を守ることができましたか	自己評価	A	B	C	D
・服装はきちんとしていましたか		A	B	C	D
・持ち物のルールは守れましたか		A	B	C	D
・班員と協力することができましたか		A	B	C	D
・他の人に迷惑をかけませんでしたか		A	B	C	D
☆良くできたこと・頑張ったこと	***★反省点・改善点***				
３、見学場所について					
・印象に残った見学場所はどこでしたか。ベスト３を書いてください。 １位（　　）理由（　　） ２位（　　）理由（　　） ３位（　　）理由（　　）					
４、修学旅行中のエピソード（楽しいものは学年通信に載せる予定です。）					
５、修学旅行の感想					

各個人の振り返りを大切にし、反省よりも成果を、また次年度に向けた印象に残った見学地、おすすめスポットなどを書かせ、よいコメントは学年通信にも載せて紹介した。

・奈良の鹿は、鹿せんべいを上にあげるとおじぎをすると聞いていましたが、本当にしたのでビックリした。

・地元のおっちゃんは気さくで、よく道案内をしていただきました。おおきに！！

・竜安寺にある石を数えるのが１５コ中、１４コしか分からなかった。

・東大寺の仁王は大きくて感動。東大寺も大仏も、日本にこんなに古くて大きい建物があるのかあと感動しました。

学年通信　桜のたより

平成１８年６月２日（金）
埼玉中学校　第３学年
NO. 7

みんなで成功させた修学旅行

「５月２５日は５時２５分」に誰一人遅れることなく集合し、天候にも恵まれ充実した３日間を過ごし、全員無事に帰ってくることができました。準備の段階から実行委員を中心に短期間集中で取り組み、みんなの力で成功させた修学旅行の成果をこれからの生活に生かしていきましょう。

たくさんの素晴らしいこと

①参加予定者が全員参加でき、北陸高駅に無遅刻で集合できたこと
②３日間、事故なく全員が無事過ごせたこと。
③班別行動をトラブルなく充実した内容でやりきり、お互いに協力し合う場面がたくさん見られたこと。
④準備の段階から、実行委員・学級代表、班長が中心となり学年・学級・係をリードしたこと。
⑤委員や係の生徒が責任感あふれる行動をし、生徒の活躍が目立ったこと。

修学旅行おもしろエピソード　<2組編>

・地主神社がすごく可愛かったです。おみくじは凶だったので踏んできました。恋占いの石は、フラフラしちゃってわたれなかったです。でも、お守りも買ったり、お参りしたりして、とても楽しかったです。（　　さん）

・バスを待っているときに京都に住んでいるおじさんに話しかけられました。本当の関西弁が聞けて面白かったです。（　　さん）

・平安神宮でおみくじをやって凶だった。旅行はするなと書いてあってかなりショックを受けた。（　　君）

・よーじやカフェというところによりました。中は畳で、いかにも和風なカフェ。静かで、メニューもよく、穴場スポットです。（　　さん）

・奈良公園付近で子ジカを見れた。少し遠かったけどかわいかった。（　　さん）

・清水寺の清水の舞台から京都のまちなみを見たこと。（　　君）

（２組の残りの人や１組も順次載せていく予定です。お楽しみに）

イ、旅行後のまとめと発表について

修学旅行を思い出としてだけでなく、多くの学習の機会にするために、事後の指導にも力を入れた。自分で学んだこと、体験したことをまとめることができることはしっかりと学習できたという証でもある。また、いろいろな方法やメディアを使って表現する能力の育成は、これからの生徒に絶対不可欠なことであり、各教科で学んだことを実際に活かす場にもなる。さらに、お互いが相互に評価することで学習に深みを増すこともできた。

①個人新聞づくり（全員）

修学旅行で学んだことやわかったこと、みんなに伝えたいことを、自分たちが撮った写真やいただいたパンフレット等をはったり、イラス

②写真コンテスト

修学旅行らしさ部門やおもしろ写真部門などの３部門に、各班から１枚ずつ応募し、生徒の投票に加え、ＰＴＡで保護者にも投票してもらい、表彰した。

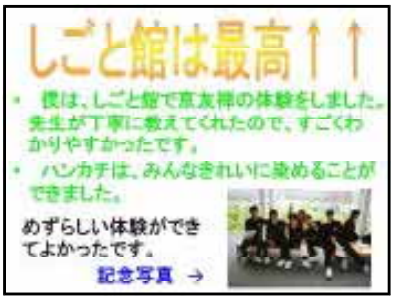
③俳句コンテスト

短冊形に切った色画用紙に一人一句書き、掲示したあと、審査した。学年集会の場で表彰した。

＜廊下掲示した俳句＞

④パワーポイントでプレゼンテーション（全員）

スライドの例



⑤総合的な学習の時間　全体発表会での発表（代表者のみ）

本校では昨年から各学年ごとに行われている発表会を全校の前でも発表し、成果を共有するだけでなく、保護者にも参観していただいている。これによって、３年間の見通しを持つだけでなく、先輩のすごさ、すばらしさも知ることができ、学びを高めあうことができた。

⑥卒業論文

３年間の総合的な学習の時間の総まとめとして、自分の興味・関心と将来を見すえ、学校全体のテーマ「共生」からより具体的な個人テーマを設定し、各自Ａ４版２（または４）ページの卒業論文を書いた。

＜後期総合的な学習の時間卒業論文のタイトル（抜粋）＞

環境	「ホタルが住める行田市」「美しい水を未来に残していくために」「地球との共生」 「美しい森をいつまでも」「今の地球環境を救うためには」「大気汚染をとめよう」 「今までの地球とこれからの地球」　「石油と共生」　「ペットと環境の共生」
福祉 健康 平和	「虐待はなぜ起きてしまうのか･･･」「身体障害者と補助犬」「飢餓問題について」 「私たちの食生活」「トイレの歴史と共生」「牛乳の身体への影響」 「戦争と核兵器」「戦争と平和　そして日本の防衛」
交流 国際	「違う宗教の人が社会に生きるには」「国際的なコミュニケーション」 「異文化を理解して共生するには　～各国のくらしを知ろう～」
歴史 文化	「世界遺産を守るためには」　「ファッションはどう変わってきたのか」 「音楽の持つ力で心を癒すには」　「私たちの生活と音楽」
科学 情報	「人とクローンの今後」　「これからの自動車と今の自動車」 「個人情報の流出を防ぐために」

(7)環境及び防災学習としての取り組み

ア、１７年度　環境やエネルギーの未来を見すえた愛地球博を取り入れた修学旅行

総合的な学習の時間の取り組みとして、２年次には地域のゴミ問題についてクリーンセンター見学やクリーン作戦を体験させた。３年次はテーマ「環境について考える（グローバルな視点に立って）　～地球から与えられた宿題～」の特別授業として外部講師を招聘し、消費生活アドバイザー　浅田浄江先生から「現在のエネルギーを取り巻く状況と２０年後の社会の変化について」の講話をいただいた。そして、修学旅行では愛地球博見学後、奈良、京都の旅を楽しんだ。

イ、１９年度　地震や災害に対する意識を高める奈良・京都・神戸の修学旅行

２年次に吹上（現鴻巣市）にある県立防災学習センターで体験学習し、地震や災害に対するテーマ学習を行った。３年次は２日目に京都の班別自由行動後、宿泊地の神戸集合とし、３日目に震災メモリアルパーク、人と防災未来センターの見学及び語り部の方の講話を取り入れた。

＜防災学習センターで地震体験＞

＜１９年度　修学旅行日程　５月２９日（金）～３１日（日）＞

＜１日目＞

5:55		7:53	10:30	12:00	14:40		16:00	17:40
北鴻巣駅→	上野駅→	東京駅→	新大阪駅→	法隆寺	→	奈良公園…自由行動→		宿（京都）
[高崎線臨時列車]		［新幹線のぞみ］		［バス］				［バス］

＜２日目＞

8:00			18:00
宿出発（京都）	→	班別自由行動（京都）	→ 宿着（神戸）

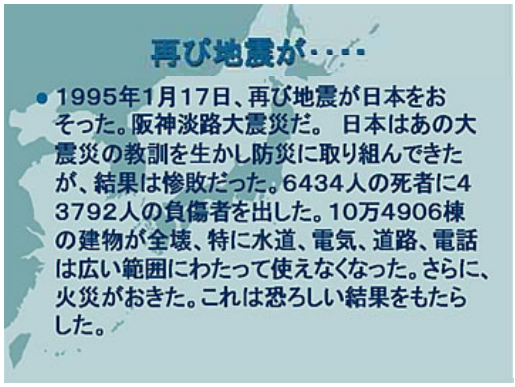
＜３日目＞

8:10	8:25	9:30	12:20	16:00	16:16	17:02
宿出発→	震災メモリアルパーク→	人と防災未来センター→	新大阪駅 →	東京駅→	上野→	北鴻巣着
	［バス］		［新幹線のぞみ］		[高崎線臨時列車]	

＜生徒の感想より＞

・３日目は、神戸の『震災メモリアルパーク』と『人と防災未来館』へ行きました。本当に地震があったの?というくらい、神戸の街は見事に復興していました。今までに防災センターなどで勉強したこととは何か違って、実際に地震のあった神戸は『地震』の恐ろしさがすごく伝わってとても悲惨なものでした。でも、とても勉強になったと思います。

・３日目は、主に震災についての学習でした。『震災メモリアルパーク』は、震災時にはひどい状況だったのに、行ったときには、とても綺麗に整っていました。『人と防災未来センター』では、震災時の細かい状況を教えて貰いました。『１．１７シアター』では、あまりにも怖い映像ばかりだったので、鳥肌が立ちっぱなしでした。でも、とても良い教訓になりました。



本校は「目に見える改革」をスローガンに、積極的な生徒会活動の取り組みが行われてきた。新聞にも取り上げられた能登半島地震救援募金に続き、修学旅行後に起こった新潟中越沖地震に、真っ先に復興のための義援金募金を呼びかけたのも、この学習と修学旅行の体験が生きていると思われる。

能登半島地震救援
行田・埼玉中が寄託
募金1万1940円
行田市立埼玉中学校（加藤茂高校長、生徒数1
72人）が26日、能登半島地震救援金として1万1940円を毎日新聞東京社会事業団に寄託した。06年の総合学習で、阪神大震災や災害について学習した3年生が能登半島地震での被害を知り、「被災者のためにできることを」と発案した。生徒会が中心になって今月中旬に5日間、玄関や各クラスへ呼び掛けて集めた。生徒会の大野萌子さんと山口由梨さんは「被災地には私たちと同じ中学3年生もいるでしょうし、受験勉強がきちんとできるように役立ててほしい」と話した。【金沢衛】
募金を寄託した大野萌子さん（左）と山口由梨さん
毎日新聞
4月27日(金)掲載

4、成果と課題

・総合的な学習の時間は行事のための時間ではないが、３年間の見通しを持ったテーマと体験的な学習を組み合わせることで生徒の学びを高めることができた。

・修学旅行にもテーマを持たせることで学びや体験の場としての付加価値を持たせることができ、コースに変化や目新しさを持たせることもできた。

・学習したことや体験したことが、帰ってからの学習や学校生活、進路選択、そして家庭生活にも活かされている。まさに「生きる力」の源になるような貴重な学習と体験の場となっていることは素晴らしいことだと思う。自分の住む地域や日本、そして地球の現在、過去、未来を考えさせることは大いに有効であると思われる。

・テーマをとるか、見学や観光をとるかのバランスが難しく、自己の課題を十分に解決するまで至らなかった。グループ作りとテーマ、コースづくりはじっくり時間をかけなければならない。

・私しごと館の希望申し込みが前年度中だったので、修学旅行の取り組みを２年次から企画し、準備を進めなければいけなかったのが大変であった。総合的な学習同様、長期的な見通しを持ち計画的に取り組まなければならないことを痛感した。

指 導 講 評

埼玉県教育局義務教育指導課　指導主事　渋谷　修造 先生

関東地区公立中学校修学旅行委員会「研究発表会のあゆみ」

昭和４１年以来、次の研究発表会を実施した。（敬称略）

回	年度	発表者　県・学校名　◎講師	研 究 内 容 ・講 演 内 容
1	昭和	増渕　増雄　栃木・泉が丘中	・修学旅行のカリキュラムについて
	41	吉沢庸之進　千葉・柏中	・修学旅行の安全対策
2	42	高畠　栄治　茨城・赤塚中	・修学旅行における事故の発生と対策
		根岸　幸治　群馬・昭和東中	・中学生の関西修学旅行の実施について
3	43	◎宮本　常一　武蔵野美術大	講演　「日本の宿の変遷と修学旅行」
		荒幡　義輔　埼玉・本太中	・修学旅行の問題点の教育的思考
		◎小沼　常治　東京桜町高校	講演　「修学旅行における見学指導の在り方」
		君島　光夫　栃木・南犬飼中	・栃木県における修学旅行の実態
4	44	小泉　　義　茨城・水戸五中	・安全実施のための運営と問題点
		高田　福松　埼玉・幸手中	・今後の修学旅行の在り方
		君島　光夫　栃木・南犬飼中	・生徒の手による修学旅行
		本間　康一　千葉・川間中	・特別活動としての学校管理上の問題点
5	45	現地研修会（京都）	
6	46	◎宮本　常一　武蔵野美術大	講演　「修学旅行における望ましい観光の在り方」
		人見　芳正　栃木・箒根中	・小、中、高の関連の中で
		塩入安三郎　栃木・鹿沼西中	・わかくさ号で行こうとしたのに
		兵頭　ヤス　栃木・田沼東中	・新幹線を利用して
7	47	◎樋口　清之　国学院大	講演　「歴史の真実」
		高橋　武司　千葉・柏中	・より効果的な修学旅行について
		高田　福松　埼玉・幸手中	・修学旅行引率費負担の現状と公費負担
8	48	◎佐藤　政次　茨城土浦日大高	講演　「歴史と暦」
		高田　福松　埼玉・幸手中	・修学旅行の意義と目的
9	49	◎樋口　清之　国学院大	講演　「旅と情報伝達ー忍者の正体」
		菊地昌一郎　埼玉・加須北中	・オリエンテーリングを取り入れた修学旅行の実際
10	50	◎萩原　　進　群馬郷土史家	講演　「群馬の風土と人」
		谷　　正久　群馬・古巻中	・群馬県の修学旅行の現状
11	51	神坂　重光　茨城・古河二中	・本校における修学旅行の企画運営
		粂川　妙子　栃木・藤岡二中	・我が校の修学旅行の理論と実際　ー自主の気風を目指してー
12	52	坂田　次雄　千葉・松戸三中	・修学旅行における道徳教育の実践
13	53	吉田　　貫　茨城・水戸二中	・充実した修学旅行を目指して
		潮池　ルミ　埼玉・蕨東中	・修学旅行における観察学習を効果的にするために - しおり作成と活用 -
14	54	生方実太郎　群馬・多那中	・集合教育を取り入れた修学旅行　ー生徒の主体的な取り組みー
		阿部　　茂　群馬・新治中	・有意義な修学旅行にするために　ー新幹線における車窓教育ー
15	55	苅部　正夫　栃木・久下田中	・有意義な修学旅行にするために　ー奈良公園におけるグループ別活動ー
16	56	天田　和之　埼玉・岡部中	・東北修学旅行を実施して
		平田　幸平　埼玉・日進中	・総力を挙げての修学旅行の運営　ー大宮市立中学校長会ー
17	57	鈴木　　勝　千葉・松戸四中	・東北へ修学旅行を実施して　ー生徒のアンケートをもとにー
		小川　辰雄　千葉・吾妻中	・生徒の自主プランによる修学旅行
18	58	岡野　　久　茨城・永山中	・連合による修学旅行の効果的なあり方を求めて
		青木　　英　茨城・見川中	・生徒を生かし育てる修学旅行を目指して
19	59	◎高橋　哲夫　文部省教科調査官	講演　「修学旅行の今日的課題」
		福原　　昭　群馬・中之条四中	・本郡修学旅行の現状と課題
		福本長治平　群馬・富士見中	・よりよい修学旅行の在り方を求めて

回	年度	発表者　県・学校名　◎講師	研 究 内 容 ・講 演 内 容
20	60	◎高橋　哲夫　　文部省教科調査官	講演　「自己教育力を育てる修学旅行」
		滝田　　潔　　栃木・横川中	・修学旅行を通じての自己啓発
21	60	松本　三郎　　栃木・壬生中	・本県修学旅行の現状と課題
		片山　悦男　　栃木・宝木中	・よりよい修学旅行の在り方を求めて
22	61	西川裕二郎　　千葉・南行徳中	・みちのくの修学旅行
		村田小夜子　　千葉・大洲中	・修学旅行を省みて
23	62	小日向勝美　　埼玉・朝霞四中	・洛中班自由行動による見学活動
		川上　次雄　　埼玉・大宮第二東中	・自由性を生かした修学旅行
24	63	◎高橋　哲夫　　文部省教科調査官	講演　「学習指導要領改訂の方向について」
		宮本千代子　　茨城・土浦第六中	・生徒自身の生徒の手による修学旅行
		川上　　徹　　茨城・日立豊浦中	・お互いを高め合うグループ別見学学習
		須藤　和彦　　茨城・下館中	・生徒と教師がともに作り、触れ、感じる修学旅行
25	平成元	＜群馬県厚生年金会館＞	
		◎高橋　哲夫　　文部省教科調査官	講演　「新学習指導要領に於ける特別活動」
		後藤　秀夫　　群馬・小野上中	・達成感の充実を目指した修学旅行
		真庭　幹郎　　群馬・沼田西中	・体験的な班別学習を取り入れた修学旅行
26	2	＜プラザインくろかみ＞	
		◎渡辺　康隆　　栃木県教委副主幹	講演　「研究成果の確認と今後の課題」
		松岡芙久子　　栃木・小山美田中	・主体性を育てる班別行動
		大滝　伸一　　栃木・宇都宮国本中	・あたらしい修学旅行の在り方を考える
27	3	＜志津コミュニティ-センター＞	主題　**「集団の中で自己を生かし協力しあう修学旅行をもとめて」**
		◎渡部　邦雄　　文部省教科調査官	講演　「集団の中に自己を生かす修学旅行」
		斎藤　正行　　千葉・国分台西中	・リーダー養成を中心にすえた修学旅行
		山田　守人　　千葉・柏五中	・班別にテーマをもつ修学旅行をつくるには
28	4	＜埼玉会館＞	主題　**「教育性を高める修学旅行をめざして」**
		井桁　　孝　　全修協修旅部長	提言　「学校週五日制と修学旅行」
		大磯　　宏　　埼玉・所沢富岡中	・主体性を伸ばす班別行動
		藤川喜久男　埼玉・狭山東中	・体験学習を通して生き方を学ぶ東北修学旅行
29	5	＜茨城県立青少年会館＞	主題　**「自主的に活動し、自ら学ぶ修学旅行」**
		井桁　　孝　　全修協修旅部長	提言　「新学力を培う修学旅行」
		秋田　昌彦　　茨城・五所ケ丘中	・生き方、在り方を学ぶ体験学習への援助指導の試み
		安島　一之　　茨城・赤塚中	・体験を通して自らの生き方を考える修学旅行への取り組み
30	6	＜プラザインくろかみ＞	主題　**「主体的に活動し、自ら学ぶ修学旅行」**
		◎大槻　達也	講演　「修学旅行における生徒の自主性」
		文部省環境教育専門官	
		田上　富男　　栃木・市貝中	・三年間を見通し自ら学びとる力の育成を目指す修学旅行
		古田　真隆　　栃木・豊郷中	・研究テーマの設定を中心に生徒自らが計画した修学旅行の実践
31	7	＜群馬県生涯学習センター＞	主題　**「主体性を育てる修学旅行」**
		◎高橋　哲夫　　文教大学教授	講演　「これからの学校教育と修学旅行」
		今成　保治　　群馬・渋川北中	・集団の行動力を高める修学旅行
		田村　正紀　　群馬・池田中	・主体性を育てる修学旅行の実践
32	8	＜市原市勤労会館＞	主題　**「主体的に活動し、自ら学ぶ修学旅行」**
		鈴木　俊幸　　千葉・土中	・自主性を育む修学旅行の取り組み
		眞野　義幸　　千葉・木刈中	・生徒の自主性を高める修学旅行のあり方

回	年度	発表者　県・学校名　◎講師	研 究 内 容 ・講 演 内 容
33	9	＜浦和市民会館＞ ◎森嶋　昭伸 文部省初中局教科調査官	主題　**「主体性を伸ばし、行動力を高める修学旅行」** 講演　「学校教育の転換と修学旅行への期待」
		田村　俊明　埼玉・鷺宮中	・生徒の知恵と発想を大事にし、主体的に生きる力を育む修学旅行
		金子　桂一　埼玉・鴻巣西中	・自主的活動をめざした修学旅行
34	10	＜水戸市民会館＞ 岩原美智枝　茨城・日立坂本中	主題　**「主体的に活動し自ら学ぶ修学旅行」** ・自ら学ぶ態度を育てる修学旅行をめざして
		坂入　秀範　茨城・下館北中	・主体的に活動し、実践力のある生徒を育てる修学旅行
35	11	＜プラザインくろかみ＞ 高塩　博美　栃木・宮の原中	主題　**「生きる力」をそだてる修学旅行** ・体験学習を取り入れた修学旅行
		片川　慶子　栃木・毛野中 三芝　直美　〃	・自らの生き方を求める体験学習としての修学旅行
36	12	＜群馬県生涯学習センター＞ ◎森嶋　昭伸 文部省初中局教科調査官	主題　**「生きる力」を育てる修学旅行** 講演「これからの学校教育と修学旅行」
		高橋　隆雄　群馬・新治中	・自主的に取り組む班別行動をめざした修学旅行
		埴田　栄一　群馬・長野原西中 田中　充弘　〃	・自ら学び、自ら考え、生き生きと活動する修学旅行 －総合的な学習の時間を活用して－
37	13	＜アミュゼ柏＞ 田淵　実　千葉・西志津中学校 佐藤　卓　〃	主題　**「生きる力を育てる修学旅行」** ・体験学習を取り入れた班別自主学習
		池田　保　千葉・湖北台中学校 澁谷　善武　〃 水戸　勝英　〃	・自ら課題を発見し、自ら計画し、自ら検証する修学旅行を目指して －修学旅行を総合的な学習と位置づけての実践－
38	14	＜さいたま市民会館おおみや＞ 渡辺　勝徳　埼玉・神泉中学校 関口　陽子　〃	主題　**「みんなで創ろう２１世紀の修学旅行」** ・自ら学び自ら考える力の育成を目指す修学旅行
		梅津　稔　埼玉・南高麗中学校	・総合的な学習の時間の視点から見た修学旅行
39	15	＜プラザイン・くろかみ＞ 生田目　薫　栃木・国本中学校 岩崎　昌美　〃	主題　**「みんなで創ろう２１世紀の修学旅行」** ・自己決定の場面を生かした修学旅行
		田中　弘子　栃木・栃木西中学校 佐藤　宏行　〃	・体験的な学習を通して見つめなおす自分とふるさと再発県の旅
40	16	＜ホテルレイクビユー水戸＞ 棚井　義広　茨城・水府中学校 古内　勝己　〃	主題　**「みんなで創ろう２１世紀の修学旅行」** ・修学旅行における国際交流学習の一端 －「Why don't you come to Suifu?」郷土紹介のガイドブックを携えて－
		一色　三千男 茨城・第四中学校	・集団づくり及び総合的な学習の時間の場としての修学旅行の在り方 －中学校３か年の旅行・集団宿泊的行事の実践的取り組みを通して－
41	17	＜水上館＞ 小渕　誠　群馬・薄根中学校 須田　秀昭　〃	**主題　「修学旅行における『学び』の創造」** ・見て、聞いて、体験して発見する私だけの京都･奈良 －体験的な活動を通して成長する生徒を目指して－
		栗原　和彦　群馬・金島中学校	・生徒の自主的活動を育み伝統文化とふれあう修学旅行 －総合的な学習の時間における実践的取り組みを通して－
42	18	＜流山市生涯学習センター＞ 根本　晃男　千葉・みつわ台中 平野　正春　〃	**主題「子供の未来を拓く修学旅行の役割」** ・ふれあい・体験・大人から学ぶ山形の旅― －３年間を見通したキャリア教育を核として－
		村山　義則　千葉・流山南部中	・日本文化探求をとおした生徒の向上

表紙写真：平成19年度　川口市立東中学校　関西修学旅行

第４３回関東地区公立中学校修学旅行研究発表会紀要

平成１９年１１月２０日

発行　　関東地区公立中学校修学旅行委員会
財団法人 全国修学旅行研究協会
[事務局]　〒102-0074　東京都千代田区九段南 2-6-8
TEL 03-5275-6653　FAX 03-5275-6653
E-mail　shuryo@h2.dion.ne.jp
URL　　shugakuryoko.com